

## 平成 18 年度 事 業 報 告

(2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)

本年度における会員現況と主な事業内容を以下項目別に報告する。

## 1. 会 員 現 況

会員種別	2006 年度			参 考	
	2006. 4. 1 現在数 (A)	2007. 3. 31 現在数 (B)	年度内の増減 (B-A)	2006. 3. 31 現在数 (C)	前年度末 との対比 (B-C)
名誉会員	16	16	0	16	0
終身会員	103	98	△5	101	△3
正 会 員	3,553	3,453	△100	3,513	△60
学生会員	885	851	△34	903	△52
賛助会員	212 社 (369 口)	215 社 (370 口)	3 社 (1 口)	209 社 (366 口)	6 社 (4 口)
特殊会員	126 社 (139 口)	117 社 (130 口)	△9 社 (△9 口)	125 社 (138 口)	△8 社 (△8 口)

## 2. 定款・規則等の制定・改正

- |                              |               |
|------------------------------|---------------|
| (1) プライバシーポリシーの制定            | (2006. 4. 27) |
| (2) 倫理綱領の制定                  | ( " 8. 4)     |
| (3) 支部交付金算定に関する内規の改正         | ( " 11. 16)   |
| (4) 粟屋潔学術奨励賞選定手続きの改正         | ( " 12. 22)   |
| (5) 経常会計の予算立案と運用の手順に関する規則の改正 | (2007. 1. 24) |
| (6) 役員、委員会等の出席交通費に関する内規の制定   | ( " 2. 22)    |
| (7) 佐藤論文賞選定手続きの改正            | ( " 2. 22)    |

## 3. 機 関 誌 の 刊 行

- (1) 日本音響学会誌  
本期間は毎月 1 日 (1 号は 12 月 25 日) を発行日とし、次の 12 冊を刊行した。

62 巻 4 号～63 巻 3 号 (2006 年 4 月～2007 年 3 月)

	巻 号	62 巻									63 巻			計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
	本文ページ	66	58	54	82	86	60	54	80	72	58	62	64	796
主 な 論 文 ・ 記 事	巻頭言		2								2			4
	音叉	2			2			2						6
	論文	35 (4)	16 (2)	29 (3)	30 (3)	16 (2)	17 (2)	29 (3)	25 (3)	26 (3)	18 (2)	17 (2)	27 (3)	285 (32)
	技術報告		4 (1)											4 (1)
	技術プラザ				8 (2)				11 (2)					19 (4)
	特別講演					6 (1)			8 (1)			6 (1)		20 (3)
	調査委員会報告	6								6				12
誌上座談会									6				6	

	解説（小特集を含む）	19 (3)	36 (6)	19 (3)	36 (6)	18 (3)	28 (5)	18 (3)	35 (6)	20 (3)	33 (6)	32 (3)	32 (6)	326 (53)	
主 な 論 文 記 事	会議報告 (シンポジウム報告)									2 (1)				2 (1)	
	連載企画									2 (1)		1 (1)		3 (2)	
	研究発表会報告					1						1		2	
	追悼文			2										2	
	選奨記事					11								11	
	総会記事					8								8	
	書評				1										1
	研究会発表論文一覧					21									21
	博士論文紹介											1			1
	コーヒープレーク	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
	62巻総目次										4				4
	学会記事等	1	1	1	2	1	2		2	3	1	1	1	2	17
	投稿規定											19			19
編集後記	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
会告	7	19	29	18	13	55	17	21	19	13	55	11	277		
広告	15	17	15	15	13	13	13	11	13	13	13	15	166		
発行部数	5300	5250	5250	5250	5250	5200	5200	5200	5200	5200	5200	5200			
小特集タイトル		※1		※2		※3		※4		※5		※6			

注 1) 欄中の ( ) 内数値は編数。

2) 会告の内容は、研究会開催案内、音響関係国内並びに国際会議、その他周知記事である。

※1 人間の音声情報処理機構の解明に向けて

2 波動としてとらえる地震

3 なぜ音楽は心に響くのか? : 音楽への科学的アプローチの現状

4 最近のスピーカの話

5 ロボットにおける音響技術

6 非線形音響技術の医用応用

(2) 英文論文誌 Acoustical Science and Technology

本期間は、2006年5月、7月、9月、11月、2007年1月、3月の各1日を発行日とし次の6冊を刊行した。

Vol. 27 No. 3~Vol. 28 No. 2 (2006年5月~2007年3月)

卷		27巻				28巻		計
号		3	4	5	6	1	2	
本文ページ		74	58	60	90	60	78	420
主 な 論 文 ・ 記 事	Paper	37 (4)	34 (4)	28 (4)	23 (3)	26 (3)	40 (5)	188 (23)
	Technical Report			5 (1)		12 (2)		17 (3)
	Acoustical Letter	20 (6)	20 (6)	23 (6)	13 (3)	18 (5)	11 (3)	105 (29)
	Foreword				1 (1)			1 (1)
	Invited Review	9 (1)			43 (9)		23 (2)	75 (12)
	和文誌英文目次	3	2	2	2	2	2	13
	和文誌論文等内容梗概	5	2	2	2	2	2	15
	Vol. 27 目次				6			6
発行部数		5200	5200	5200	5250	5200	5200	

注) 欄中の ( ) 内数値は編数。

- (3) 科学技術振興機構が主催する電子ジャーナル共同利用センター (J-stage) のサイト(URL <http://ast.jstage.jst.go.jp/>) で、引き続いて Acoustical Science and Technology 誌 (AST 誌) を公開した。

#### 4. 研究発表会の開催

- (1) 春季研究発表会は、2006年3月14日、15日、16日の3日間、日本大学駿河台キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、1413名である。  
 なお、学生並びに新たに研究発表会に参加した方を対象とする新人盛会を開催した。  
 また、アコースティックテクノプラザ(展示会)を併催した。  
 スペシャルセッションは、分野横断型スペシャルセッションとして2件、「日本語話し言葉コーパス(CSJ)の利用と研究成果をめぐって(招待講演3件)」、「音のシミュレーションー音場解析手法とその応用ー(招待講演3件)」のほか、単独分野で2件、「道路交通騒音の予測モデルとその応用(招待講演4件)」、「熱音響冷却技術の最近の展開(招待講演3件)」で実施した。
- (2) 秋季研究発表会は、2006年9月13日、14日、15日の3日間、金沢大学角間キャンパスを会場として開催した。参加者実数は、921名である。  
 スペシャルセッションは、「音声合成のための言語処理技術ーより自然で多様な合成音声を目指してー(招待講演2件)」、「脊椎動物の聴覚生理学：故古河太郎先生を偲んで(招待講演3件)」、「音楽制作における音色：アートとテクノロジーの統合を目指して(招待講演6件)」、「室内音響における拡散と散乱(招待講演5件)」の4テーマを実施した。
- (3) ポスター賞は、春季研究発表会は5件、秋季研究発表会は6件を選定し贈呈した。
- (4) 春季並びに秋季の発表分野、講演件数及び特別講演は次表のとおりである。

分野別		春季	秋季
講演件数	音声 A	106	77
	音声 B	93	61
	聴覚/聴覚・音声	54	50
	電気音響	92	83
	音楽音響	26	33
	騒音・振動	39	33
	建築音響	39	68
	超音波	116	81
	水中音響	7	6
	アコースティック・イメージング	15	19
	分野横断(話し言葉コーパス)	12	—
分野横断(音のシミュレーション)	21	—	
計		620	511

特別講演	演題	理工学系学生と教員の心のケア	小児における人工内耳装用後の言語音の獲得について
	講師	日本大学教授 川西利昌氏	金沢大学教授 能登谷晶子氏

#### 5. 特別企画・コミュニティセッションの開催

特別企画委員会(渡辺好章委員長)において実施した特別企画及び会員と意見交換をするコミュニティセッションは以下の通りである。

- (1) 2006年春季研究発表会に併催して、「音楽のタベ カザルスホールの2つのオルガン」と

- 題する特別企画を開催した。なお、参加者は約 350 名であった。
- (2) 2006 年春季研究発表会に併催して、「学会の電子化について」と題するコミュニティセッションを開催した。なお、参加者は約 35 名であった。
- (3) 2006 年秋季研究発表会において、日本音響学会北陸支部設立を記念して「太鼓を聴く、日本を聴く－講演と演奏－」と題する特別企画を開催した。なお、参加者は約 200 名であった。

## 6. 研究会の開催

本年度に実施した各研究会の活動概要は次表のとおりである。

研究会名	委員長 (敬称略)	開催回数	発表件数	備考
超音波	鎌倉友男	11	117	アコースティック・イメージング調査研究委員会、音響化学研究会との合同開催の分を含む
騒音・振動	藤本一寿	10	54	建築音響研究会、アコースティック・イメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む
電気音響	牧野昭二	11	118	音楽音響研究会、聴覚研究会との合同開催の分を含む
音声	田中和世	9	181	聴覚研究会との合同開催の分を含む
聴覚	伊藤憲三	10	141	音声研究会、建築音響研究会、電気音響研究会との合同開催の分を含む
建築音響	吉村純一	10	50	聴覚研究会、騒音・振動研究会、アコースティック・イメージング調査研究委員会との合同開催の分を含む
音楽音響	柳田益造	8	101	電気音響研究会との合同開催の分を含む
音響化学	酒井啓司	1	19	音波の物性と化学討論会（超音波研究会、日本化学会と共催）
合計		70	781	

## 7. 国際交流

### (1) 国際会議の開催・準備等

ア. 2006 年 11 月 28 日から 12 月 2 日の 5 日間、ホノルル（アメリカ）において日米音響学会ジョイントミーティングを開催した。なお、発表件数は 1616 件、参加者は 1952 名であった。

また、日本からの発表申込は 505 件、参加者は 595 名であった。

イ. 2007 年 6 月 4 日～6 日の 4 日間、東北大学青葉記念会館（仙台市）において開催する日中音響学会議の実行委員会（鈴木陽一委員長）において中国側とタイムスケジュール、プログラム編成方針等について審議・決定した。

### (2) 当学会が会員となっている国際音響学会(ICA)、国際騒音制御工学会(I-INCE)の総会等に出席し、その活動に協力した。また、西太平洋地区音響学会議(WESPAC)に協力した。

## 8. 音響規格の調査・作成

### (1) 当学会で原案作成を行った日本工業規格(JIS)に関して 5 年ごとの見直し作業を行った。

### (2) 音響に関する国際規格（ISO/TC/43, 同/SC1, 同/SC2 及び IEC/TC29 関係）の審議を日本規格協会から委託され、それぞれの専門委員会（橘 秀樹委員長[ISO], 佐藤宗純委員長[IEC]）において審議し、結果をとりまとめて報告した。

## 9. 調査研究委員会の活動

### (1) 道路交通騒音予測手法の調査研究

中日本高速道路(株)中央研究所から「道路交通騒音の予測及び対策手法の検討」及び名古屋高速道路公社から「平成 18 年度道路交通騒音の予測及び対策手法の検討業務委託」を受託。さらに(株)環境技術研究所から「交差点部等の騒音予測法に関する研究」を受託。

道路交通騒音調査研究委員会（山本貢平委員長）が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。

- (2) 音響教育に関する調査研究  
音響教育調査研究委員会（荒井隆行委員長）において、音響教育に関する現状の調査研究及び将来の音響教育のあり方等について審議を行った。
- (3) 聴力保護に関する調査研究  
聴力保護のための調査研究委員会（鈴木陽一委員長）において、欧米における聴力保護の活動状況の調査研究及び国内における啓蒙活動のあり方等について審議を行った。なお、同委員会は今年度で解散した。
- (4) 音バリアフリーに関する調査研究  
聴覚障害者のための会話システムの研究、デバイスの研究・開発・実用化及び普及を目的とした音バリアフリー調査研究委員会（上羽貞行委員長）を設置した。
- (5) 超音波暴露に関する調査研究  
強力超音波、骨導超音波、楽音に含まれる超高周波音など、超音波が人体に及ぼす影響・評価について、定量的な指針確立に向けての情報交換の場を提供し、提言を行う超音波暴露調査研究委員会（蘆原郁委員長）を新たに設置した。
- (6) アコースティック・イメージングに関する調査研究  
アコースティック・イメージング調査研究委員会（渡辺好章委員長）において、音波を利用するイメージング、音波等の可視化技術等について調査研究及び研究発表会のアコースティックイメージングセッションのプログラム編成を行った。なお、今年度は研究会を4回開催し、28件の発表があった。
- (7) 建設工事騒音予測に関する調査研究  
(独)土木研究所から「平成18年度建設工事騒音予測手法に関する調査検討業務」を受託。建設工事騒音予測調査研究委員会（橘 秀樹委員長）が作業を実施し、その成果を委託者に報告した。

## 10. 選 奨

- (1) 功 績 賞  
音響に関する学術又は関連事業に対し、特別の功績があると認められる方に贈られるもので、第30回功績賞受賞者は、江端正直、大賀寿郎、吉田登美男の3氏に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。
- (2) 佐藤論文賞  
音響学に関し学術上及び技術上貢献するところが大きい研究業績を本学会誌に発表した方に贈られるもので、学会誌61巻1号～12号、62巻1号～12号並びにAST誌Vol.26 No.1～No.6, Vol.27 No.1～No.6に掲載された論文中から優秀な論文を選び、2007年春季研究発表会選奨会場(2007年3月14日)で本賞を贈呈した。

### 第47回佐藤論文賞受賞論文（敬称略）

- 秋山正彦・内山 弘・鎌倉友男（電気通信大学）  
「楕円面音響レンズによる集束音波ビーム」日本音響学会誌61巻2号
- 蘆原 郁・倉片憲治・水浪田鶴（(独)産業技術総合研究所）・松下一馬（(独)製品評価技術基盤機構）  
「Hearing threshold for pure tones above 20kHz」Acoustical Science and Technology 誌27巻1号
- 引地孝文（NTTコミュニケーション科学基礎研究所）・Marc Delcroix・三好正人（NTTコミュニケーション科学基礎研究所／北海道大学）  
「Speech dereverberation algorithm using transfer function estimates with overestimated order」Acoustical Science and Technology 誌27巻1号

- (3) 栗屋 潔学術奨励賞

有為と認められる新進の研究・技術者の方に贈られるもので、2006年春季研究発表会並びに秋季研究発表会の講演者のうちの本賞受賞対象者から優秀な者を選び、2007年春季研究発表会選奨会場(2007年3月14日)で本賞を贈呈した。

第24回粟屋 潔学術奨励賞受賞者(敬称略)

ア. 2006年春季研究発表会

○秋田祐哉(京都大学)

「統計的変換モデルに基づく話し言葉言語モデルの構築法」

○石塚健太郎(NTTコミュニケーション科学基礎研究所)

「Exponential自己回帰モデルを用いた音声区間検出」

○鈴木久晴(九州芸術工科大学)

「FDTD法における多孔質材料の簡易モデル」

イ. 2006年秋季研究発表会

○小野順貴(東京大学)

「拡散音場モデルに基づく残響環境下での信頼度付時間差検出」

○佐藤逸人(神戸大学)

「音声の聴き取りにくさと音響物理指標の関係(3)ー重回帰式による聴き取りにくさの予測ー」

○飛龍志津子(同志社大学)

「FMコウモリのエコーロケーションパルス・エコーのテレメトリ計測ー飛行時における基本信号特性の変化ー」

(4) 独創研究奨励賞 板倉記念

音声処理に関する独創的な研究を行った若手会員の方に贈られるもので、会員から推薦のあった候補者から優秀な者を選び、2007年春季研究発表会選奨会場(2007年3月14日)で本賞を贈呈した。

第2回独創研究奨励賞 板倉記念 受賞者(敬称略)

○亀岡弘和(東京大学)

「調波時間構造化クラスタリングによる多重音解析と計算論的聴覚情景分析に関する研究」

○田部洋祐(九州大学)

「声門流の構造的表現と声門波の生成機構に関する研究」

(5) 技術開発賞

音響に関する工業技術の進歩発展に特に貢献したと認められる本会賛助会員の代表者、賛助会員所属の個人、グループに贈られるもので、公募により推薦された候補の中から優秀なものを選んだ。なお、賞の贈呈は通常総会の際に行う。

第15回技術開発賞受賞者(敬称略)

○(株)アルカディア

「音声波形分析・編集ソフトウェア“AcousticCore”」

天白成一(アルカディア)

○(株)カイジョー

「溶存ガス量コントロール技術による超音波洗浄効率向上とその応用」

橋本芳樹, 高橋典久, 岡野勝一, 小山克宏, 関友樹, 坂崎勝直

○ヤマハ(株)

「乾式遮音二重床“YDF”の開発」

棚瀬廉人, 本地由和, 吉田篤史, 小林 哲

1.1. 講習会, 講演会の開催

(1) 講習会(敬称略)

事業委員会(守谷健弘委員長)が今年度を実施した講習会及び技術セミナーは以下のとお

りである。

ア.「音源定位と音源分離の基礎」(第92回技術講習会)

期 日；2006年7月6日～7日 会場；全国家電会館

講 師；浅野 太(産業技術総合研究所)

受講者数；33名

イ.「強力超音波の基礎と応用」(第93回技術講習会)

期 日；2006年7月13日 会場；中央大学駿河台記念館

講 師；中村健太郎(東京工業大学), 渡辺裕二(拓殖大学), 山森春男(本多電子)

受講者数；39名

ウ.「道路交通騒音の予測モデル“ASJ RTN-Model 2003”の基礎と応用」  
(第14回音響技術セミナー)

期 日；2006年7月19日～20日 会場；全国家電会館

講 師；山本貢平(小林理学研究所), 押野康夫(日本自動車研究所),  
田近輝俊(環境技術研究所), 福島昭則(ニューズ環境設計),  
三宅龍雄(総合技術コンサルタント), 坂本慎一(東京大学)

受講者数；63名

エ.「デジタル信号処理の基礎」(第94回技術講習会)

期 日；2006年11月9日～10日 会場；東京電機大学神田キャンパス

講 師；金田 豊(東京電機大学)

受講者数；49名

オ.「Juliusの演習による音声認識の実用技術」(第95回技術講習会)

期 日；2006年11月15日 会場；全国家電会館

講 師；李 晃伸(名古屋工業大学)

受講者数；30名

カ.「超音波診断装置とその周辺技術」(第96回技術講習会)

期 日；2007年3月2日～3日 会場；全国家電会館

講 師；斎藤繁実(東海大学), 児島俊弘(玉川大学), 椎名 毅(筑波大学),  
原田烈光(アロカ), 渡辺好章(同志社大学), 神山直久(東芝),  
梅村晋一郎(東北大学), 望月 剛(アロカ)

受講者数；37名

(2) サマーセミナー(敬称略)

ア.「音響学の基礎と最近のトピックス」(第9回サマーセミナー)

期 日；2006年7月28日～30日 会場；長野県白馬・シエラリゾート

講 師；荒井隆行(上智大学), 及川靖広(早稲田大学), 大内康裕(早稲田大学),  
大川茂樹(千葉工業大学), 岡田恭明(名城大学), 尾本 章(九州大学),  
鈴木陽一(東北大学), 須田宇宙(千葉工業大学), 中村健太郎(東京工業大学),  
西口磯春(神奈川工科大学), 松川真美(同志社大学),  
三井田惇郎(千葉工業大学), 山崎芳男(早稲田大学)

受講者数；75名

1.2. 出版事業

音響テクノロジーシリーズの編集委員会を新たな構成で発足した。青本シリーズ「音源の流体音響学」を刊行するとともに、音響入門シリーズの出版を進め、第1回配本「デジタルフーリエ解析(I)(II)CD-ROM付」を刊行した。

1.3. 学会電子化推進に関する活動

電子化推進委員会(平原達也委員長)において、ホームページのリニューアルを実施した。また、編集委員会と協力してWebを利用する投稿論文の査読システム作成作業を実施し、更に、Webを利用した各種会員サービスについて検討し、それぞれ2007年からの稼働を目途として作業を進めた。

1.4. 会勢拡大及び広報に関連する活動

(1) 広報委員会(武田一哉委員長)において、メーリングリストを利用した会員への連絡をメールニュースと名付けて実施し、会員への迅速な情報伝達を図った。

(2) 活性化委員会(伊勢史郎委員長)において、学生会員の学会活動を円滑にする目的で学生フォーラムを組織した。

(3) 会勢拡大委員会（小野隆彦委員長）において、学会活動の周知等について検討した。

1 5. 学会の将来計画

学術委員会（金井浩委員長）において研究発表会運営の改善，研究委員会資料のアーカイブ化における問題点等について審議検討した。

1 6. 他学協会等からの共催等依頼

区 分	件 数	摘 要
共 催	1 件	(社)日本機械学会ほか
協 賛	30 件	(社)計測自動制御学会ほか
後 援	1 件	(社)日本電子回路工業会
計	32 件	

1 7. 支部の事業

(1) 関 西 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
動物音響談話会	18. 4. 14	同志社大学	参加者 64 名
支部総会	18. 4. 27	大阪市天王寺動物園 レクチャールーム	出席者 224 名(うち委任状 199) / 定足数 119 名
講演会・見学会	18. 4. 27	大阪市天王寺動物園	動物園の音環境に関する講演会 動物園の説明並びに見学 参加者 33 名
聴覚研究会	18. 5. 19 ～ 20	同志社大学	発表件数 17 件 参加者 119 名
電気音響研究会	18. 5. 25 ～ 26	イーグレひめじ	発表件数 12 件 参加者 65 名
音声研究会	18. 5. 26	同志社大学	発表件数 5 件 参加者 20 名
技術講演会	18. 8. 31	NTT コミュニケーション科学基礎研究所	講演 1 件 参加者 47 名 NTT, IEEE 関西支部との共催
音楽音響研究会	18. 9. 1 ～ 9. 2	同志社大学	発表件数 24 件 参加者 61 名
見学会・講演会	18. 10. 26	竹中大工道具館	大工道具に関する講演会 大工道具の説明並びに見学 参加者 23 名
聴覚研究会・建築音響研究会	18. 11. 8	神戸大学	発表件数 9 件 参加者 44 名
騒音・振動研究会	18. 11. 10	キャンパスプラザ京都	発表件数 5 件 参加者 19 名
電気関係学会関西支部 連合大会	18. 11. 25 ～ 26	大阪工業大学枚方キャンパス	音響学会が担当学会 シンポジウム「生物のソナーシステム—イルカとコウモリのエコーロケーションシステムの比較」 講演 6 件+パネルディスカッション 特別講演 第 2 言語の音声学習— 基礎研究から学習支援システムの 開発まで」(山田玲子先生) 一般講演セッション「音響」 講演 23 件
第 9 回若手交流研究発表会	18. 12. 14	キャンパスプラザ京都	発表件数 31 件 参加者 90 名
音場と音声伝搬に関する講演会(講演)	19. 1. 23	神戸市ジーベックホール	講演 2 件 参加者 98 名
音声研究会	19. 1. 25	立命館大学	発表件数 31 件



	～ 26		参加者 109 名
--	------	--	-----------

超音波研究会	19. 1. 25 ～ 26	同志社大学	発表件数 27 参加者 119 名
電気音響研究会	19. 1. 25 ～ 26	同志社大学	発表件数 27 件 参加者 119 名

## (2) 東 北 支 部

### ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
シンポジウム音の情報科学	18. 4. 18	仙台メディアテーク	「なぜコウモリは暗闇を飛べるか」 (共催) 講演者 James A. Simmons(ブラウン大), 力丸 裕(同志社大), 松尾行雄(東北学院大)
支部総会	18. 5. 11	東北大学工学部	
第 981 回学術講演会	18. 5. 11	東北大学工学部	演題「高温過酷環境での超音波計測技術とその製造プロセスへの応用」 講師 小野 雄 氏 (National Research Council Canada)
第 982 回学術講演会	18. 5. 31	東北大学工学部	演題「深海底から日本列島の未来を探る技術」 講師 白崎勇一 氏(東大)
音声研究会	18. 6. 22 ～ 23	東北大学大学院	
建築音響研究会	18. 7. 7	八戸工業大学	
聴覚研究会・電気音響研究会	18. 8. 9 ～ 10	東北大学電気通信研究所	
電気関係学会東北支部連合大会	18. 8. 31 ～ 9. 1	秋田大学	発表件数 350 件 セッション数 53 件 参加者 700 名 特別講演「日本社会の変遷に思うこと」 講師：諸星 裕 氏(桜美林大学)
超音波研究会	18. 9. 21 ～ 22	石巻専修大学	
聴覚研究会	18. 10. 6 ～ 7	いこいの村岩手	
第 5 回東北地区若手研究者研究発表会(共催)	19. 3. 1	東北工業大学	

## (3) 東 海 支 部

### ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	18. 3. 28	名古屋大学	参加者 13 名
騒音・振動研究会	18. 5. 19	名城大学天白キャンパス	講演件数 7 件 参加者 47 名
東海地区音声関連研究室 M2 中間発表会(協賛)	18. 8. 7	岐阜大学	講演件数 44 件 参加者 131 名
音声研究会	18. 9. 26 ～ 27	愛知県立大学	講演件数 25 件 参加者 延べ 57 名
電気関係学会東海支部連合大会	18. 9. 27 ～ 28	岐阜大学	一般講演 590 件 (音響部門 9 件) シンポジウム 7 件

			参加者 1131 名
見学会	18. 10. 17	国道 302 号 (遮音壁, 低騒音舗装見学)	「道路交通騒音対策のための各種遮音壁・低騒音舗装見学会」 協力 愛知国道事務所 参加者 33 名
名古屋大学情報系 COE シンポジウム (協賛)	18. 12. 7 ～ 8	名古屋大学	「第 4 回社会情報基盤のための音声・映像の知的統合シンポジウム」名古屋大学情報系 COE 委員会主催 参加者 483 名 招待講演 8 件, 一般講演 17 件
東海地区騒音振動若手研究会	18. 12. 15	愛知工業大学本山キャンパス	講演件数 8 件 参加者 28 名
講演会(主催)	18. 12. 15	愛知工業大学本山キャンパス	「騒音と法制度」 久野和宏 氏(愛知工大) 「騒音社会調査に関する同行」 大宮正昭 氏(エスエス環境)
音声言語処理研究会第 8 回音声言語シンポジウム	18. 12. 21 ～ 22	名古屋大学野依記念学術交流館	講演件数 45 件 参加者 81 名
専門講習会 (協賛)	19. 2. 2	ローズコートホテル	「最先端ディスプレイ技術」 参加者 37 名
市民セミナー (協賛)	19. 2. 22	中部電力東桜会館	「ワインと健康」 講師 島 幸子氏 (シニアソムリエ) 電気学会東海支部主催 参加者 53 名

#### (4) 九州支部

##### ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部総会	18. 3. 31	九州大学・大橋キャンパス	出席者 81 名(うち委任状提出者 57 名)
建築音響研究会	18. 5. 26	大分大学	
電気関係学会九州支部連合大会	18. 9. 28 ～ 29	宮崎大学	発表総数 6 1 0 件
音響化学・超音波研究会	18. 10. 19 ～ 10. 20	九州大学	
騒音・振動研究会	18. 12. 15	九州大学・西新プラザ	
聴覚研究会	18. 12. 16 ～ 17	九州大学	
騒音・振動研究会	19. 1. 12	沖縄産業支援センター	
音楽音響研究会	19. 1. 13	九州大学	
Kyushu-Youngnam Joint Conference on Acoustics 2007 (KYJCA07)	19. 1. 27	九州大学大橋キャンパス	参加者 日本側 51 名(内学生 30 名) 韓国側 23 名(内学生 14 名) 発表件数 特別講演 2 件 一般講演 36 件(内ポスタ 22 件)
講演会	19. 3. 31	九州大学大橋キャンパス	「ジェットスクリーチ今昔」 講師 瀬戸邦聰 氏 (佐賀大)

##### イ. 学生表彰

九州支部が主催又は共催した研究発表会, 研究会における学生の口頭発表を対象として応募者を募り特に優れたものを表彰した。今年度の受賞者は 3 名であった。

(5) 北 陸 支 部

ア. 総会・研究会・連合大会等の事業

事業の内容	開催日	場 所	摘 要 (敬称略)
支部設立総会	18. 9. 14	金沢大学	出席者 28 名 (うち委任状提出者 9 名)
音楽音響研究会	18. 11. 11 ～ 12	金沢工業大学	発表件数 30 件 参加者 97 名
電気関係学会北陸支部 連合大会	18. 9. 16 ～ 17	金沢工業大学	
平成 18 年度北陸地区学 生による研究発表会	19. 3. 10	石川工業高等専門学校	発表件数 155 件 (内音響関係 20 件)

イ. 支部設立記念式典

日時 平成 18 年 9 月 14 日 12:30-13:00

会場 金沢大学

船田支部長の挨拶の後、電子情報通信学会、情報処理学会それぞれの支部長の祝辞があった。

ウ. 支部設立記念特別企画

日時 平成 18 年 9 月 13 日 19:00-20:00

会場 石川県文教会館ホール

演題 太鼓を聴く、日本を聴く

講師 木越 治氏 (金沢大学文学部教授、石川県太鼓連盟理事長)

出席者数 約 200 名

エ. 支部設立初年度として、情報の送信システムを整えることを主眼とし、支部メーリングリスト、支部ホームページを開設した。